

学校教育目標		めざす子どもの姿（中期的目標）		総合評価						
かしこく やさしく たくましく	1 自ら課題を持ち解決に向けて、友や地域とかかわり合いながら主体的に学ぶ子ども 2 お互いの「良さ」を認め合い、相手の立場を理解して、物事を判断する子ども 3 活動の楽しさを味わいながら心身を鍛える子ども			コロナ禍という特異な状況ではあったが、中長期的目標に沿った教育課程を推進することができた。特に、学力向上の面では、生活科や総合的な学習の時間を軸に、「主体的・対話的な学びはどうあるべきか」について活動内容や場のあり方をおして学びあうことができた。次年度も同じような状況になると思うが、「主体的・対話的な学び」について研究を深めていきたい。また、プライド5や「さん・くん」呼びなど、教職員の押し付けにならないように児童自らが考えられるような進め方をしていく必要がある。児童会活動とのタイアップを考えていきたい。						
	今年度の重点目標			成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策	
	考えることを 楽しめる 子ども	①	かかわり合いのある「主体的・対話的」な授業の実施（学力向上）		生活科・総合的な学習の時間を軸に主体性は高められた。対話については、今後検討が必要。		○			ペア学習、グループ学習など学習形態の工夫と、対話が生まれるような場の設定についてコロナ化を前提に考えていく。
		②	互いの「良さ」をわかり合える学級・学年づくり（やさしい学校）		プライド5を児童に浸透させ、「ありがとう」「笑顔」を大事にする校風ができてきた。		○			プライド5の実現を教職員にだけ任せるのではなく、児童会活動とタイアップさせ、児童が浸透させ、児童が実現できるものにしていく。
③		目当てを持って運動や活動に取り組む集団づくり（健康で安心・安全な学校）		授業の課題や必要感を明確にすることで、何のための活動なのか意識して運動や活動に取り組める児童が増えた。		○			スパイラルな学びにしていけるために、目当てを持たせたら振り返り、次に生かすというサイクルを大事にしていく。	

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
教育課程	教育課程	① 各教科における表現活動の充実	各教科・総合的な学習の時間の学習場面で、自分の考えを表したり、他者の考えを受け止めたりして自分の考えを深めることができたか。	コロナ禍で、教室内の学習形態が一斉授業形式になりがちになり、教師主導の授業が多かった。生活科や総合的な学習の時間では活動を通して、考えを交流しあう姿が見られた。		○			生活科や総合的な学習を大事にし、教室以外に学びの場を求めていく。自然から学ぶ、塩田の文化財から学ぶという視点を大事にしたい。
		② 道徳教育・人権教育の充実	自分の考えをもち、自分とは異なった考えを持つ相手の立場にたった言動ができるようになったか。	日々の授業を大事にし、道徳教育や人権教育に取り組めた。相手の気持ちを考えて表現できる子が増えた。		○			地道な日々の授業を継続していくことと、タイムリーな指導をしていくことの両輪を大事にし、子どもの実態に合った学びを展開していく。
		③ 特別活動の充実	目当てをもって行動するとともに、自分の行動を振り返り、次の行動へのめあてをもつことができていくか。	目当てを明確にしたうえで行動させるという経験を積み重ねたことで、自分で考えて行動できる子が増えてきた。振り返らせ方に課題が残った。		○			スパイラルな学びにしていけるために、目当てを持たせたら振り返り、次に生かすというサイクルを大事にしていく。
学習指導	学習指導	④ 読む活動の充実	朝読書、読み聞かせ、図書館の時間などの読書活動を教師の積極的なかかわりによって充実させているか。	朝読書を低学年は毎日、高学年は週に2日位置付けて取り組んできたことで、本を読む環境づくりはできた。しかし、読書活動の啓発については担任次第といった面も見られ、課題が残る。		○			読書の時間を明確に設定することと、司書教諭が中心となった全校で足並みをそろえた読書活動を展開していく。ボランティアによる読み聞かせは来年度は行う方向で。
		⑤ 授業の充実	考える活動、表現する活動を意識した授業に取り組み、主体的・対話的な学習が活発に展開されているか。	1時間の授業にメリハリをつけ、課題や児童の様子に合わせて考える時間を弾力的に確保し、考える力をつけることができた。表現力の向上についてはコロナ禍で難しさがあった。		○			主体的・対話的な学習を活発に行うための授業内容、場の工夫等、具体的に考えていく。
		⑥ 家庭学習の充実	基礎の定着及び学習への意欲を高める家庭学習が位置づけられているか。	授業に関連した内容や自分が選べる宿題を出し、学力の定着や主体的に学ぶ力が家庭学習でも身に着けることができた。家庭環境により、取り組み方に差が出た。		○			来年度より使用可能となる児童一人一人のタブレット端末を家庭学習でどう活用していくかが家庭学習を円滑に進めるためのカギになる有効な活用方法を考えていく。
生徒指導	生徒指導	⑦ 基本的生活習慣の充実	自分からするあいさつ、「～くん、～さん」の友の呼び方、靴のかかとそろえ、時間のけじめなどの基本的習慣が日常的に身につくような指導がされていたか。	課題が残った。まずは教職員から時間を守ったり、「さん、くん」をつけて子どもを呼んだりしていく必要性を感じた。		○			教職員への啓発、どうして「さん、くん」をつけて呼ぶ必要があるのか研修を行い、職員の意識改革を行っていく。児童会とのタイアップ。
		⑧ 自他を大切にす気持ちの醸成	学校生活全般で相手を意識させ、互いの気持ちを考えたり、相手に寄り添った行動がとれたりする場面を日常的に取り入れることができたか。	道徳教育や人権教育を通常の授業に確実に位置付けて指導してきたことで相手に寄り添い、考えられる子どもが増えてきた。活動場面での差が見られる。			○		相手意識を高めるために、必要感のある活動を設定していく。例えば、兄妹学級との交流や外部機関との交流などを位置づける。
学校運営	学校運営	⑨ 地域に根ざした学習の充実	地域の自然・人材・文化財から学ぶ学習を仕組み、豊かな体験を通して人や物との関わりを学ぶ学習をすすめることができたか。	コロナ禍で、地域の人材や文化財から学ぶ機会を設けることが難しかった。			○		コロナ禍で学校に人材を招いて学ぶことができない分、地域に出かけ、地域の文化財から学ぶ機会を設けていく。外での活動であれば、外部の方との交流がしやすくなると思う。
		⑩ 情報の発信と連携	学校公開、学校・学年・学級便りなどを通して児童の様子や学校の願いを伝え、保護者・地域との連携に努めているか。	授業参観日を通しての学校公開はあまりできなかった。しかし、保護者アンケートからはコロナ禍の状況で学校がよく対応してくれているとの評価が多かった。HPを通して学校の様子を知ることができるという意見もあった。		○			授業参観は全校が同じ日に行うのではなく、日を分けて行う。また、HPの活用も今年度同様工夫していく。
		⑪ 授業の改善	明確な自己課題を持ち、その解決のために授業公開や各種研修に積極的に関わり自己研修に努めているか。	校外に出るような機会はあまりなかったが、職員研修として学びあう機会を設定できた。学力向上委員会による授業改善も効果があった。			○		校内研修に力を入れ、先輩から学んだり、専門的な知識を持つ先生方から学ぶ機会を持つ。